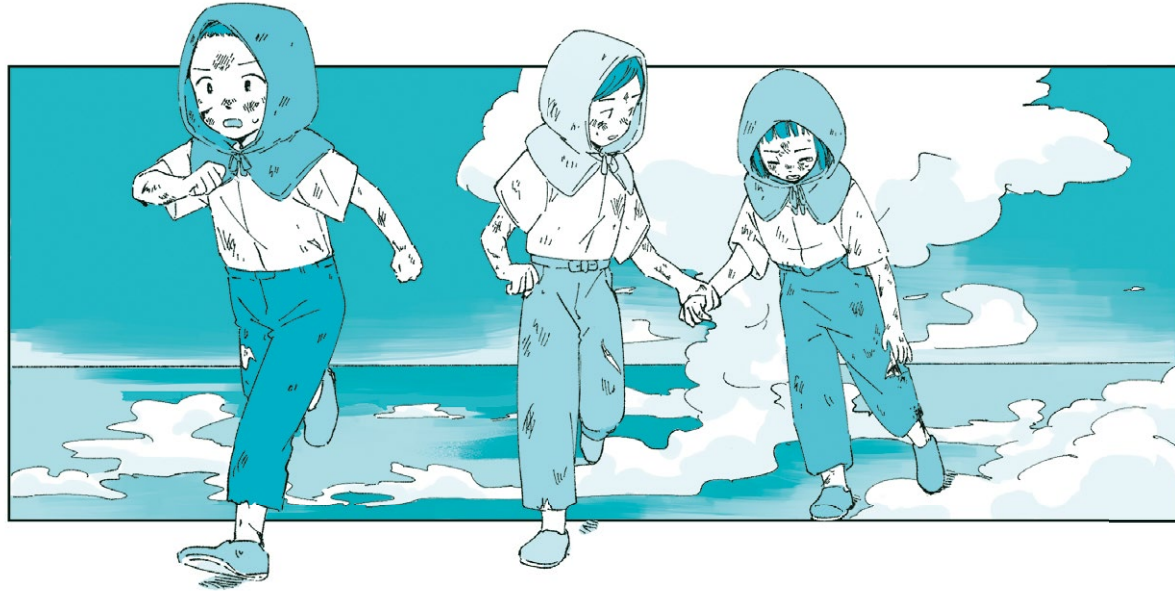


原爆当時を偲ぶ

広島市 大森 規美子 (故人)



8月6日は私にとって一生わすれることのできない日です。当時は夏休みもない時代でした。朝から太陽がさんと照りつけ、学生は疎開作業にくくことになっておりました。

広島市内の鶴見橋のところへ集合となっておりましたが(市内の学生全員がそれぞれに建物疎開や軍関係の仕事)、急に校長先生がいったん学校に集合するように言われ、私はその方が近いので喜んでおりました。

学校に行き、まず校舎の掃除に行きました。それから現場に行くことになっておりました。学校は当時木造建築

以下は、母が親しくおつきあいさせていただいていた大森さんが生前に書かれた体験文です。有田直子



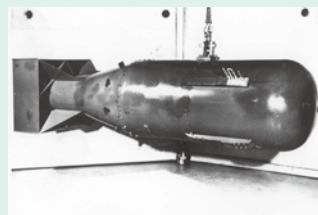
港に待機する引き揚げ船群 (舞鶴西港)
写真提供：舞鶴引揚記念館

言う、「私は太く短くていいの」と言つ、そんな妹をなだめながら半年過ごした。

ようやく町なかも落ち着いて、昭和22年頃から大連からも引き揚げ船が出るようになった。まだ帰らぬ兄のことを案じながら、引き揚げ船に乗った。汽笛が長く尾を引いて、船が港を離れてゆく、赤い夕陽とともに港が見えなくなった頃、母は肌身離さず持っていた青酸カリを、海に投じた。

疎開作業
建物疎開を行うこと。

建物疎開
空襲で火災が発生した際に、重要施設への延焼を防ぐために、その周りの建築物を撤去すること。



広島に投下された原子爆弾「リトルボーイ」
米国国立公文書館所蔵
写真提供：広島平和記念資料館

原爆
原子爆弾のこと。ウラン、プルトニウムなど核分裂反応で発生する熱線・爆風・放射線で殺傷、破壊する爆弾。

引き揚げ船
外地にいた日本人が、日本の本土(内地)に帰る際に使用された船。当時660万人以上といわれる日本人が海外に残されており、1949年末までに、624万人が帰還した。



でした。

多分**警戒警報**だったと思います。8時15分、突然朱色の光でした。**焼夷弾**でも近くに落ちたな
 と思いました、ガタガタとゆれ、天井が落ちてきました。とっさに机の下にかくれました。そ
 の時は生きた心地はありません。

やっと音が収まりましたので、必死で、逃げなくてはと思い立ち上がり、天井等落ちたのをか
 きわけながら見ると、窓ガラスも粉々になって、窓ガラスの枠も斜めになっていました。廊下
 出ると顔が血だらけになっている人、手や足をけがしている人もいました。私たちは素足で下
 降りていきましたが、生徒たちは「お母さん」と泣きそうになっていました。自分の教室に行っ
 て救急袋（自分の荷物）を取り、先生も必死で校庭に集まるように言われ、靴を履こうと思っ
 て駄箱のところに行けば、下駄箱も倒れており、自分の靴を一生懸命さがしました。やっと取り
 出して校庭に集合、もう不安でいっぱいでした。ここもあぶないと思われ、前の方にある山へ逃
 げるようにと先生から指示がありました。市内の方を見ると黒い煙で、そのうちに大やけどを
 し、顔も黒くなった人が逃げてきました。

私が山へ逃げた間に、母親が心配で探しに来たようです。母も体の三分の二はやけどしており
 ました。人に私のことを聞いて少し安心したようで、自分も疲れたのでしよう、座り込んでウト
 ウトしたようです。はっと目が覚めると誰もいないので、ここで死んだらいけないと思い、その
 当時、非常時が起きた場合にと決められていた私の学校の近くの避難場所にいきました。市内の

方向を見ると、あちらこちらから火が出て、家に帰れるような状態ではなかったのです。自分の
 家も焼かれました。

私は友人の田中さんのお兄さんのお友だちの所へ泊めていただきました。そこはお医者の家で
 したが、陳列台も倒れ、ガラスケースなども壊れておりました。そこで世話になりました。夜
 になり、市内が全域焼けてすべて停電になっておりましたが、外に出るとその火の灯りで明るい
 状態で、**防空壕**に出たり入ったりの一夜を過ごしました。せつかく逃げて帰ったのに、その夜に
 亡くなった方もいて、その身内の方からのすすり泣きの声が聞こえておりました。その夜は一睡
 もできず、だんだんと夜も明け、人々もざわざわするようになりました。

3日目、田中さんのお兄さんが私の父親を探してくださり、生きていと言われました。当時父
 親は**貯金局**（千田町）に勤務しておりました。一緒に行っていただき、父の元気な顔を見てほっと
 しましたが、着ていた白いシャツに血が大きくついておりましたのでびっくりしました。「これは
 人の血だ」と父は言いました。父親たちがいたのは大きなビルで、ガラスも厚かったのですが、そ
 のガラスが壊れ、頸動脈にささり亡くなられたようです。周囲から火の粉が飛んでくるのでバケ
 ツで水をかけたりして、やっと焼けなかったそうです。何年か経って賞状だけもらったようです。
 家も焼け、帰るところがなかったので、地下室でしばらくいさせてもらいました。

あの1日が運命を変えました。でも私は幸い命を取りとめ、ありがたいことに今日にいたって
 おります。全世界が平和でなくてはなりません。命は大切です。

警戒警報

敵機の空襲のおそれがある場合
 に出された警報。

焼夷弾

敵の建造物や陣地を焼くことを
 目的とした砲弾や爆弾。木造の
 日本家屋を効率よく焼き払うた
 めに使用された。

防空壕

空からくる敵の攻撃に対し、避
 難するために掘ってつくった穴
 やみぞ。

貯金局

旧郵政省の内局の一つ。郵便為
 替・郵便貯金・郵便振替、年
 金・恩給の支給、各官庁の歳入
 出金の受け入れ・支払いなどに
 関する事務を取り扱った。